五雲会

二〇一九年十一月十六日（土）
開演 十二時（正午）
開場 十一時
於 宝生能楽堂

12:00

枕慈童

シテ 佐野 玄宜
ワキ 舘田 善博
大鼓 柿原 孝則
小鼓 坂田 正博
太鼓 林 雄一郎
笛 藤田 貴寛
後見 佐野 由於 高橋 亘 辰巳 和磨 金井 賢郎
地謡 木谷 哲也 金野 泰大 金森 隆晋 佐野 弘宜 小林 晋也 野月 聡 水上 優 亀井 雄二

12:45

仏師

河野 佑紀
上杉 啓太

〈休憩十五分〉

13:20

三井寺

子方 野月 惺太
シテ 小倉健太郎
ワキ 殿田 謙吉
間 野村 万蔵
〃 野村拳之介
大鼓 柿原 弘和
小鼓 鵜澤洋太郎
笛 小野寺竜一
後見 東川 光夫 澤田 宏司
地謡 今井 基 川瀬 隆士 當山 淳司 内藤 飛能 渡邊 茂人 金井 雄資 佐野 登 東川 尚史

〈休憩十五分〉

15:05

鉄輪

シテ 高橋 憲正
ワキ 梅村 昌功
間 上杉 啓太
大鼓 原岡 一之
小鼓 飯冨 孔明
太鼓 大川 典良
笛 熊本俊太郎
後見 宝生 和英 小倉伸二郎 藤井 秋雅
地謡 朝倉 大輔 田崎 甫 金森 良充 辰巳大二郎 和久荘太郎 藤井 雅之 大友 順 藪 克徳

終演予定 十六時五分頃

演目の解説

能「枕慈童」（まくらじどう）

魏の文帝に仕える臣下が、勅命により菊の水の源を尋ねて山中へ分け入ると、菊の咲き乱れる場所で不思議な慈童に出会います。臣下が訝しく思いその存在を疑うと、慈童は周の穆王に仕えたとい、そうして八百年も昔のことなので、さいらに疑われてしまいます。慈童は法華経の二句この偈の妙文を書き放逐されたとき、菊の葉に写したこの山にて賜っており、不死となったことの露を飲んで不老をもたらした枕を讃え、帝に祝福の言葉を捧げて舞を舞います。

狂言「仏師」（ぶっし）

田舎に住むある男は一間四面の堂を建て、本尊にする仏像を求めに都にやってきます。仏師（ぶっし）（仏像を彫る人）がどこにいるか、またどういう人かも知らず、男は「仏（ほとけ）買おう、仏師を探します」など大声で呼ばわって歩き、仏師が近づき、自分こそが真（ま）仏師だと嘘をついて、翌日までに仏像を作ると言います。約束の時間になり、男が仏像の受け渡し場所へ行くと……。

能「三井寺」（みいでら）

駿河国清見ガ関に住む女は、我が子の千満が行方知らずになってしまったので、都に上り清水寺に参籠して祈っていました。観音の霊夢を得た女は、三井寺へ向かった。言葉に従い、直ぐに近江国三井寺の僧の一元かい一方、千満は三井寺の月を見るために居り、八月十五夜の態でそこに出ていました。狂女の月を愛で、鐘を撞こうとして庭に現れた女は、月を見るために一元に止められますが、中国の故事を引いて僧をやり込め鐘を撞きます。その姿に僧を上げ、母も気づいて母と気づいた千満が声を上げ、二人はめでたく再会します。

能「鉄輪」（かなわ）

鞍馬貴船神社の神主が、毎夜丑の時参に来る女に神託を与えると、女は俄かに物凄いい気色に変わり、駆け去って行きます。一方、この女を離別した男は夢見が悪い事を心配し、陰陽師阿倍清明に相談します。清明は女の嫉妬の心が強く、男の命も今夜限りとなっていると告げ、夫婦の形代を作って女を待ち受けます。神託の通り嫉妬の心で鬼となった女は男の元へ向うが、清明の勧請した神々に妨げられ、またの機会を待つといって去ってげ行きます。

次回予告

二〇一九年十二月十四日（土）
正午 始

巻	絹 木谷 哲也
班	女 和久荘太郎
融	小倉伸二郎

文化庁文化芸術振興費補助金
（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会